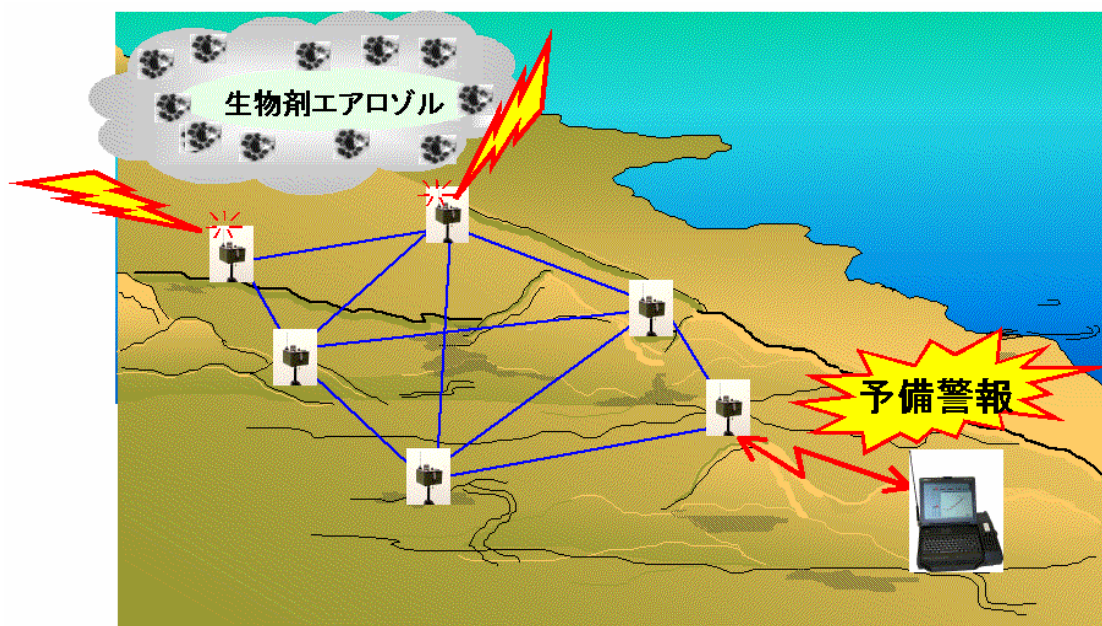


防衛庁技術研究本部先進技術推進センターと国立医薬品食品衛生研究所の 生物剤検知システム分野における研究協力に関する取決めの締結について

本日、防衛庁技術研究本部先進技術推進センター（センター所長：佐藤 隆一）は、国立医薬品食品衛生研究所（所長：西島 正弘）と生物剤検知システム分野における研究協力に関する取決めに締結しました。

この取決めに基に、生物剤検知システム分野の研究において適切な研究協力を図ることにより、それぞれが実施する研究開発を効率的に実施することが可能となります。

当面は、大気中に存在する微粒子の微粒子観測データのFUMI理論等を用いたスペクトル解析、粒子数観測データと気象データとの相関分析等を実施し、生物剤検知システムにおける警報発生判定アルゴリズムの構築に資するための研究の効率化を図ることを予定しています。



生物剤エアロゾル監視構想

(注) FUMI理論 : Function of Mutual Information

国立医薬品食品衛生研究所の林讓博士により理論構築され、機器分析において繰り返し測定なしに、ノイズとシグナルの確率論的性質から精度を予測する理論。現在、国立医薬品食品衛生研究所では、今起きている事象がそれ以前に起きた事象に依存し不規則変化する自然現象や社会現象に対して、同理論の適用を研究中である。